

クロンシュタット・イズヴェエスチャ

IV

八号 一九二一年 三月十日

La Commune de
Cronstadt
- Cronstadt
Izvestias-
Delibaste 1969
吉原 文明・訳

イズヴェエスチャ 八号

一九二一年 三月十日 木曜日

クロンシュタットに放たれた爆弾は、共産主義陣営の激興の印である。

臨時革命委員会からの指令

われわれが位置する戦時状態を理解して町のすべての住民は、夜になったならば電気のスイッチを入れる前にすべての窓をできるだけ完全に締めて欲しい。

臨時革命委員会委員長 キルガス

同書記 トーキン

クロンシュタット市の指令官命令

クロンシュタット市に住んでいる共産主義者は、この命令が通達されてから二日以内にすべての武器——自動拳銃、鉄砲、弾丸に相当する（剣、短刀、電気ランプ、その他）——を市の指令官事務所（ロシエル広場）に届け出なければならぬ。
この命令に従わなかった者のうち、もし所有している武器が発見されたならば臨時革命委員会の命令に逆らったものとみなされ、最も厳格な罪を受くべきである。

クロンシュタット市の指令官 ジムスコフ

反撃

南と北に打撃を加えることを試みた敵の襲撃は、撃退せられた。敵側は手ひどい損害をこうむった。われわれの側は、いかなる損害もなかったことを表明する。

平和と剛毅

われわれは流血を欲してはいない。流血を欲しているのは、最初に砲火を開き、今なお戦闘隊形を保持している共産主義者たちである。労働者革命に忠実なクロンシュタットの赤軍兵士、水兵、労働者たちは、ロシア・ソヴィエトの運命を人念に作り上げた。

共産主義者が三年来保持し続けた奴隷制の鎖は、次から次へとたち切られていった。

共産主義者の王座は揺ぎ、彼らの激怒は分別を失わせ、右から左へと労働者、農民は銃殺され、大量の血が流された。無防備な反徒たちの家族は迫害され凌辱された。さらに甘い約束事で丸めこむ残忍な野獣は、労働者人民を焼き払った。

共産主義者によって罪深くも流された農民、労働者兄弟の血は、裏切者たちの憎らしいくびきに反対した兵士たちの唯一の軍団がなした絆である。

われわれの戦時召集は了解された。

増援隊はすでに到着している。われらの兄弟——労働者、農民——は、この狂気じみた一団に対する戦いのなかにおいてさえも、われらを助けながらボルシェヴィキの頭上に諸手を差し出している。われわれは官僚政治を粉砕しなければならぬ。

われわれの力を乱費しないために、耐えられない心の怒り、冷酷になっていく理性を抑制しつつ、われわれは敵に決定的な一撃を、最後の一撃を加えるであらう。

それが平和と剛毅とであり、裏切者たちに対する戦いの勝利をわれわれの下に導くものである。

臨時革命委員会から

共産主義者は彼らの家族と同じようにわれらを自由に放置し、その間彼らは非常にばかばかしい騒ぎを流布し、人民の中に恐怖の種を蒔き、不安におとしめようとする準備された。臨時革命委員会は、共産主義者のこのような行動に翻弄されない。

さらに彼らは、トロツキーが石と灰、その他の集まりであるクロンシュタットを再編することを約束したと語り、クラスナイア・ゴルカ要塞の引き渡しをもちかけた。

それらすべては、無用の緊張状態の国家のなかであって、市民の絶えまない支持の結果によるものである。

もし臨時革命委員会があらゆるニュースを公表しなかったならば、人民のなかの共産主義者の多くのスパイの嘘報によって、われわれ自身異常な社会情勢のなかに在ったであらう。市民の皆さん！「新聞」の朱色の表題にわれわれは、煽動者たちに対する不平を聴き、むしろ彼らの行動を中止させるため、あるいは臨時革命委員会に彼らを復帰させるため、紙面に記載できるだけの記事を載せてきた。

また臨時革命委員会は虚偽の風説を流布している彼らに対して、われわれがさしかかっている状況を考え和合すべきであると断固とした節度をもって訴えた。

サイン 臨時革命委員会

世界のプロレタリアートへのラジオ・アピール

三月八日次に続くラジオ・アピールを送った。

すべての人民……へ、すべての人民……へ、すべての……へ。

すべての国のプロレタリアートの同志諸君、共産主義者は、ソヴィエトの眞の権力を考慮したわれわれの運動が暴動であると表明した。だが反徒たちとは彼らであつて、われわれではない。

労働者大衆は今までの体制は偽造されたものであるとして、ソヴィエトの再選を強く要求した。だが犯罪人トロツキーを頭にボルシェヴィキ政府は、労働者を銃殺しながら、彼らの家族を拷問にかけながら、労働者大衆の意向を彼らがなしえるあらゆる方法によつて窒息させ、党の絶対的権力を保持することを表明した。共産主義者たちは、われわれの指導者が反動的將軍どもであり、彼らはフィンランドから援助を受け、給料をもらつてゐるといふ虚報を流した。

世界のプロレタリアートの良心を前に、われわれはいかなる白色擁護將軍もわれわれを指揮していず、ただの一人たりともいず、また臨時の軍事援助も食糧引渡しの交渉をも、フィンランドとただの一度たりともつたことがないことを断言する。

われわれは、われわれが共産主義者を撃破するに十分な量の軍需品をもつてゐる。だがもし戦いが長びいたならばわれわれは、われらの英雄、子供、市民のための食糧を供給するために、外部の援助を求める義務を多分負うであらう。

共産主義者たちがわれわれに和睦を申し込んだ時は、彼らの無能力さを偽造するためであり、彼らは労働者の第三革命を窒息させるに十分な力を集結することができない。それが眞実である。

三日前、最初に発砲したのは彼らだった。最初に人間の鮮血を流させたのは彼らだった。われわれは正当な理由の戦いのために、その挑戦に応じた。そしてクロンシュタットの守備兵と住民は、

共産主義者のくびきを自からの手で振り落し、最後の最後まで戦うことを取り決めた。

兄弟たちに敬礼

クロンシュタット臨時革命委員会

裏切られた者たちの叫び

すでに三年、一握りの放縦な篡奪者たちは自分勝手に振るまつてきた。とうとうロシア労働者の息子であるクロンシュタットは、共産主義者の行き過ぎに憤慨し、裏切られ、略奪されたロシア人民の運命を三月一日引き受けることを決定した。

「われわれクロンシュタットの住民は全員一致して指導者たちに言った。暴力行為はもうたくさんだ！ 欺瞞はもうたくさんだ！ われらの道筋から姿を消せ！ 自由に呼吸させてくれ、そしてすべての労働者・農民・水兵・赤軍兵士たちの広大なロシアの国土にわれらの望みの場を作ることに関知するな！」

裏切者の共産主義者は、ロシア人民がすべてを知ること恐れていた。彼らは三年半の支配のなかで、無罪の者の鮮血を休みなく求め、更にわれらの兄弟を銃殺することに満足せず、目下無罪な婦人と子供たちを虐待している。

ところで彼らはどこへいったのか？ すなわちわれわれの代表者たちである。彼らはなぜわれわれを防衛し、牢獄のなかで苦しんでいるわれらの兄弟を解放することができなかったのか？

いや、われわれは、おまえたち共産主義者の実のない話し魔術を十分に知つていた。だれ一人として、おまえたちを信ずる者

はいない。われわれはおまえたちをまったく恐れていない。これは將軍でもではなく、おまえたちに反対して立ち上った生産者人民、彼ら自身である。

正義を守るため立ち上った、人民ロシアの殉教者万歳。すべての労働者によって選出された、クロンシュタットの臨時革命委員会万歳！われわれは共産主義者を全く信用しない。

庄制者たちの手足は下劣だ！

革命的三頭政治の技術労働者軍

共産主義者と共に戦う赤軍兵士へ

同志諸君！三月七日ロシアの労働者・農民の死刑執行人であるトロツキーの命令によって、共産主義者に服従しない自由クロンシュタットのわれわれの上に、セストロレックとリシイからの火蓋が切られた。彼らは権力を保持するために、労働者人民・農民を見捨てたのである。

われわれは流血を全く欲していない。われわれは戦いを強制されるまでは、ただの一発たりとも発砲しなかった！

われわれは生産者人民の正義を守るため、発砲を余儀なくされるだろう。

われらの兄弟を逮捕し、人民を犠牲にして私腹を肥やす共産主義者によって確実に死に追いやられた。トロツキー、ジノヴィエフ、そして他の指導者たちは、良く温められた居心地のよい彼らの部屋のなかで、彼らの立派な館のなかの日当りの良い柔かなソファアの上で、クロンシュタット反乱を最もすばやく、より効果的に血浸にする方法を探している。

あなたがた赤軍兵士にとって不幸なことに、猛吹雪は入り込めない深い闇のなかで荒れ狂っていた。それにもかかわらず共産主義者の死刑執行人たちは、あなたがたに情け容赦もなく氷の上を進軍するよう命令し、共産党の分遣隊は機関銃を装備して、あなたがたが後退できないよう背後から威嚇した。

あなたがたの多くは、フィンランド湾の広大な氷原の上でその夜死んでいった。そして猛吹雪が終って明け方になったとき、疲労と飢餓で身動きできなくなったあなたがたの隊のほんの少数の者が、白装束のままや々とわれわれの所に這ってきた。明け方にはあなたがたは千人だったのが、その日のうちに数えられるほどに減っていた。あなたがたは、自らの鮮血と煩悶とをこの冒険に捧げ、高い金を払った。あなたがたが敗北すると、トロツキーはさらに新たな殺戮の犠牲者を集めにペトログラードへ急行した——われらの労働者・農民の血を安く手に入れるために！

そしてもしあなたがたが躊躇したり、この無頼漢どもを守るためにあなたがたの生命を捨てることを拒否したならば、すぐにあなたがたの上に機関銃を掃射できるよう、あなたがたの背に身を隠し、われらの弾丸が届かない場所で良い服を着、栄養のあるうまいものを食べている共産主義者によって強制された新しい連帯がやってくるだろう。すべての共産主義者と同じくチェカの死刑執行人たちは、われわれ自身の一日分の食糧配給を取り上げた。だがわれわれは、共産主義者を同じようには取扱わない。われわれがバルチック艦隊の人民委員に食卓油を与えなかった時、彼はわれわれに食卓油なしでは生活できないと抗議した。というのも、われわれが子供と病人たちのために食卓油を保存していたからだ。

これがクロンシュタットの真実である。

クロンシュタットは、白色将校とフィンランドの反動家たちでいっぱいだと共産主義者は言っている。だがそれは虚報である。クロンシュタットの唯一の指導者は、裏切者たちのくびきからロシアのすべての人民を解放するため、われわれに誓った赤軍兵士と労働者である。

同志諸君、あなたがたが行っている行為を知ってくれ！なぜあなたがたは自らの血を流すのか、またなぜそれを待ち望んでいたのか考えてくれ！共産主義者の行為は、かつて歴史のなかでは決して存在しなかった悲惨な（飢えと寒さ）のなかにロシアを誘い込んでしまった。

村民たちは多くの徴発で、パン、家畜、労働手段、あらゆるものが不足した。衣服も履物も燃料もない労働者・農民は、少しずつ死滅し、飢えた住民、死を意味する嚴寒は、最もすばらしかった日々のあらゆる希望を喪失させてしまった。

それは共産主義者たちが、われわれにもたらしたものであった。三年六ヶ月の間、彼らはあなたがたにまもなくすべてが良くなるとほざいてきた。だが何一つとしてなされなかった。それが事実である。その間あなたがたの持物すべてを剥ぎ取ってしまい、悲惨な生活を強制させた。

最後に彼らは、あなたがたを屠殺場へ送った。共産主義者はあなたがたを必要とはしてない。彼らは、彼らの幻想でもって人民を压制し権力を保持するために、ただあなたがたを支配することのみ望んでいる。

压制者ほううんざりだ、彼らの権力とあなたがたの肩にのし

かかっているくびきは、もうたくさんだ。起て同盟よ、あなたがたの銃剣でこれら卑劣な裏切者どもを打ち碎け。

ロシア・ソヴィエトのコミューンと解放の敵、トロツキーとジノヴィエフによって指揮された悪人の一団を襲撃するため連帯せよ。同志よ戦闘開始！一致団結して敵を襲撃しよう！勝利はわれらにある！

兄弟の連帯意識

ソヴィエトのための戦いは日増しに連帯意識を深めている。すべての兄弟たちは、共同の仕事に参加するためのあらゆる可能な方法を探している。最初に地方冶金工業者の委員会が、馬肉の一日分配給を共同自炊することに満場一致で賛成し、この仕事を委員会に帰属させた。

革命的三頭政治官と地方委員の選挙

冶金工組合（クロンシュタット要塞の建築部門）の第六回地方委員会的一般集会で、同志キルガスとペレベルキンが最近の諸事件の進展に関する報告をし、その後次に続く決議が採択された。

「われわれはあなたがたを信頼している。われわれはあなたがたと共にある。自由への道を恐れず進め。われわれはあなたがたを裏切らない、そしてこれは最も必要なことだ。われわれは労働者、農民兄弟の救済のため、あなたがたの傍で死ぬであろう。」

同志コルテコが地方委員会の革命的三頭政治執政官に選出された。また同志ポリノフが委員会議長に再選され、同志パリシエフが同書記に、同志クプリノフがそのメンバーに各々選出された。

編集局への手紙

私はあなたがたに、ロシア共産党脱党報告を記載した『クロンシュタット・イズヴェスチャ』三月九日号の誤りを訂正するよう申しでる。私はかつて党になど属したことはなく、むしろ党员たちを憎んでいる。偽善者たちのスローガンは、われわれを今日まで誤った方向へ導いてきた。

吸血鬼共産主義者は下劣だ！

労働者解放万歳！

サイン G・ベロン 海軍中隊技師

揺らぐ共産主義権力と脱党書簡

尊敬すべき三頭政治を復活させるため、党手帳と証明書をロシア共産党に返却した者、及び以降党を離れるであろう者の申し出。

脱党書簡

約三年間私は熱望しあらゆる学ぼうとしている人々に私の知識を与えてきた。そしてこれは最後まで行った。一七年の革命は、私の仕事に新たなより大きい地平と力を与え、私はより精力的に私の理想に献身することを続けた。共産党の「あらゆるものを人民のために」というスローガンに私はすっかり感応されてしまい、一九二〇年二月にロシア共産党に入党した。

だが最初の一撃が七〇〇人以上のクロンシュタットの私の可愛い子供や平和な人民に対して放たれたとき、私はこれらの無実の血を流した共犯者であると考え、恐ろしさに震えてしまった。私はもはや野蛮行為によって彼らの汚れた信仰である思想を信

じたり、宣伝したりすることができないと悟った。そこで、共産主義者の最初の一撃があった時から、私は自分をロシア共産党のメンバーであると考えることをやめた。

教師 マリア・ニコラエヴナ・チャテル

一九二一年三月八日

私はあなたがたに、私自身、ロシア共産党のメンバーとして考えられないことを申し出る。なぜなら、私は共産主義者たちが犯した罪を清算したいからである。猛獣のような彼らは、彼らの略奪物に情けをかけない。

私は誠実で公正な道程、労働者大衆の案内人臨時革命委員会に敬意を表す。

ジスロバ 兵器工場労働者

ペトログラードへ代表者を派遣するというクロンシュタット同志の提案に応えて、トロツキーが飛行機を送って罪のない婦人や子供の上に爆弾を投下して以来、またいたるところで正直な労働者を撃ち殺して以来、われわれ第三区の電気機械部門の共産黨員は、トロツキーと彼の手下の策動と彼らの野蛮な行為に深く憤りを感じながら、われわれはロシア共産党を脱党する。

そしてわれわれは、共産主義者によって奴隷化されている労働者を解放する共同目的のために、誠意をこめて戦い、労働者に荷担する。われわれを無党派であると考えてもらいたいことを強く要求する。

(一七名のサインが続く)

次に続くわれわれは共産党を脱党するに到った(各人の専門と

職業が印され、その後七五名のサインが続く)

同志諸君、私はあなたがたに、あなたがたの家族の一員として受け入れられんことを要求する。なぜなら、私自身農業労働者でもあるからだ。私の家族は共産主義者のくびきによって、他の多くのの人々と同じように乞食生活を強いられてしまった。同志諸君、この泥沼と共産党官僚政治の一部分でもいいから理解してくれ。彼らのあらゆる命令と、技術的な重要性ではなく一枚の紙によって居座っている彼らの体質を理解してくれ。私は共産党の隊列を放棄し、三月一日の会合で採択された決議に同意する。

私はあなたがたに、あなたがたの仲間として私を受け入れてくれるよう再度要求し、私の考えていることは、あなたがたの気持ちと同じであることを伝える。

ジュスコフ 第三師団の職業軍人

ロシア共産党のメンバーである下著のわれわれは、完全な党の官僚政治と、大衆に鉄槌を下す絶対主義の党の策略は、ことごとく撃破されると考える。われわれは彼らの隊列を放棄し、全世界の労働者人民を前にして、今だ党に居座っている彼らは、犯罪人と暗殺者の集団であることを再確認する。

われわれはすべてのロシア共産党のメンバーに、現在人民の自由意志の代弁者であり、唯一の組織である臨時革命委員会に加わろうと呼びかける。

盲目の熱狂的信者たちに反対して、われらと共に武器を取り、そしてあなたがたのスローガン「労働者大衆の名誉のために打ち

勝つか死ぬか」に立ち上れ。

クロンシュタット海上要塞の防空赤軍兵士(一七名のサイン)

共産党が人民の自由意志と少くとも意見を異にしていることは明白である。さらに党は、党の立場を守るため人民をあらゆる方法を用いて威嚇し、権力を保持するための虚報を流布した。私はロシア共産党を脱党することを臨時革命委員会に告げ、私は社会再建の早急な解決をすべての生産者人民の奉仕のなかに見出し、私のすべての力と軍人の権能を投入することを約束する。

私はクロンシュタット守備隊の決議すべてに連帯提携する。

S・ソフリン 戦闘水兵

『イオム』 8号

二五〇頁

——アナキズム／文学と思想——

労働と職業(労働に関する断章 4) 日野善太郎

アイルランド問題の理解のために(上)

ワット・タイラー 草浦公英・訳

シシリー島での優雅なるバカンス

(ヨーロッパの旅 第6回) 平山 房子

△日本無政府共産党Vへの批判 宮崎 晃

詩 山口 英／高島 洋

イオム雑誌 寺島 珠雄／杉藤 二郎／河本 乾次

発行所 神戸市葺合区熊内町一丁目五ノ三

イオムの会